

とらすと通信

— 営業のご報告 6月号 —

2026

株主さまと当社をつなぐ、スマートフォンアプリ



株主 KABUNUSHI
パスポート PASSPORT



<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/kabunushi-passport>

ぜひアプリをダウンロードしてご利用ください。

託された未来をひらく



三井住友トラストグループ
SUMITOMO MITSUI TRUST GROUP

トップメッセージ

このたび、三井住友トラストグループの社長に就任致しました大山です。
株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
「とらすと通信」をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

新社長 PROFILE

おおやま かず や
大山 一也

1965年6月7日生まれ。京都府出身。
趣味は読書・バスケットボール。
1988年入社。人事部長、経営企画部長、経営
企画部統括役員、三井住友信託銀行の社長を
経て、2026年4月より当社執行役社長（CEO）、
2026年6月より現職。

Top interview

仕事をするうえで大切にしていること

「夢は大きく、志は高く、挑み続ける」「明るく、楽しく、元気よく」「皆と一緒に、あと一步だけ前に進もう」がモットーです。挑戦的な課題に取り組む時こそ、このスタンスが必要です。

そして「チームで勝つ」ことを常に意識しています。「一つの目的に向かって英知を結集し、協働して結果を出す」ことが、組織行動の中で最も楽しく幸せなことだと思っているからです。

今後の抱負

「人事を尽くして、天命を待つ」ならぬ「天命と対峙して、人事を尽くす」という心境です。松下幸之助氏は、経営者は「この会社は何のために存在しているのか」ということを考え抜き、それが自分の「血肉」と化し、「己の魂」となっていなければ、生きた経営力には結びつかない、と言っています。

私も、「託された未来をひらく」という当社のパーパスと対峙し、考え抜きながら、人事を尽くしていきたいと思えます。



取締役執行役社長（CEO）

大山一也

1. 業績の振り返りと株主還元について

2025年度の実質業務純益は、法人与信関連、資産運用・資産管理などの手数料関連利益の好調に加え、円金利上昇により実質的な資金関連の損益^(※1)が改善した一方、将来に備えた債券ポートフォリオの健全化に伴う損失を計上した結果、前年度比145億円減益の3,474億円となりました。

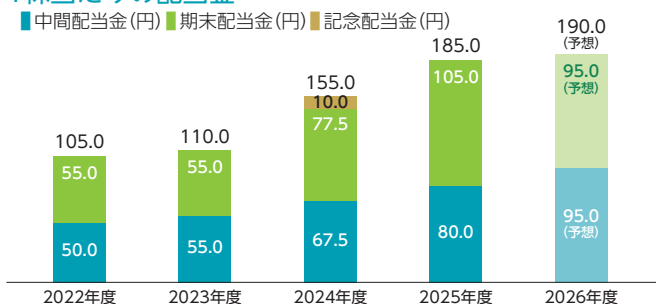
また、親会社株主に帰属する当期純利益は、政策保有株式の売却進展により株式等関係損益が大幅に改善したことから、前年度比599億円増益の3,175億円となり、過去最高益を達成いたしました。

2025年度（通期）の普通株式配当金は、1株当たり前年度比30円増配となる185円をお支払いいたします^(※2)。

なお、2025年5月と11月に公表した2回の自己株式取得に加えて、2026年5月に上限500億円の自己株式取得の実施を公表いたしました。

2026年度は、親会社株主に帰属する当期純利益3,800億円と、前年度比5円増配の1株当たり190円の普通株式配当を予想しております^(※2)。当グループは、さらなる利益成長を通じた、1株当たり配当金の増加を目指してまいります。

1株当たりの配当金^(※3)



株主還元方針（2026年度より適用）

総還元性向50%以上を目安に株主還元を行います。
1株当たり配当金については、累進的としつつ、政策保有株式の売却損益を除く「修正純利益^(※)」の50%程度を目安に決定します。
自己株式取得については、資本の効率性向上に資する還元策として、業績、資本の状況、および当社の株価などを踏まえて、機動的に実施します。

※修正純利益＝親会社株主に帰属する当期純利益－政策保有株式に係る売却損益（税引き後）

(※1) 「資金関連利益」に「その他の利益」に含まれる外貨余資運用益を含めております。

(※2) 2026年8月1日を効力発生日とする株式分割（4分割）考慮前の金額で表示しております。

(※3) 2023年度以前の配当金は、2024年1月1日を効力発生日とする株式分割（2分割）を考慮した金額を表示しております。

2. 中期経営計画の進捗について

2025年度は、2023年度より開始した中期経営計画の総仕上げとして、これまで進めてきた取り組みを具体的な成果へと結実させるとともに、新中期経営計画への橋渡しを進めてまいりました。

当グループの社会的使命である「**資金・資産・資本の好循環**」の実現に向けた取り組みは着実に進展しています。その成果として、業績は堅調に推移しており、金利上昇等の環境変化や株式市場の追い風も背景に、PBR、時価総額、純利益などの経営指標は、**2030年のありたい姿^(※)として掲げていた水準に概ね到達し、主要な目標を前倒しで達成**しました。

資産運用ビジネスにおいては、インフラの老朽化対応や再生可能エネルギーの普及といった社会に不可欠な分野で、事業者の長期資金ニーズと投資家の運用ニーズを結びつけ、好循環の創出に注力しています。**三井住友信託銀行**では、個人のお客さま向けに、プライベートアセットを組み入れた実績配当型合同運用指定金銭信託や外国籍投資信託などの新たな投資機会の提供を開始しました。国内のインフラ領域を専門に投資助言を行う子会社である**ジャパン・エクステンシブ・インフラストラクチャー株式会社**では、同社が助言を行う機関投資家のお客さま向けの国内インフラファンド第二号を組成し、企業年金基金にも参画いただきながら、国内最大級となる1,200億円規模の募集実現に向けて着実に進展しています。

あわせて、中長期的なROEの改善に向け、AI・ITの活用による業務高度化と社員の生産性向上にも取り組みました。当グループ独自の生成AI基盤「Trust BRAiN」の導入に加え、**三井住友信託銀行**と**三井住友トラスト・システム&サービス株式会社**の統合によりシステム開発・運営体制を再編するなど、より迅速かつ安定的にサービスを提供できる体制の構築を進めてまいりました。

資本政策においては、株主還元として累進的配当を継続し、機動的な自己株式取得も実施しています。また、成長領域の強化に向けて戦略的に資本を活用するとともに、資本効率向上を目的として、政策保有株式の削減や事業の見直しを通じた資本創出を進めています。その一環として**三井住友トラスト・パナソニックファイナンス株式会社**の経営の自由度を高め、事業領域の拡大を図るために、芙蓉総合リース株式会社及び株式会社横浜フィナンシャルグループとの共同事業化に向けた基本合意書を締結しました。

また、当グループの「**全てのステークホルダーのウェルビーイング向上に貢献する**」というミッションのもと、三井住友信託銀行の人事制度を刷新し、社員一人ひとりの自律的なキャリア形成を後押しするとともに、自身の意思と専門性に基づく挑戦と成長を促す環境整備を進めています。多様性の観点では、女性取締役比率や女性管理職比率を高めるとともに、高度な知見を持つ外部人材の役員登用も進めています。

今後も、信託グループらしいビジネスの推進を通じ、次の100年に向けた豊かな未来づくりに挑戦し続けてまいります。

※2030年のありたい姿：

(定量) ROE：中長期10%以上、純利益：3,000億円以上、AUF：800兆円、PBR：早期に1倍以上（時価総額3兆円以上）

3. 今後の取り組みについて

当グループを取り巻く経営環境は、金利ある世界への転換、インフレへの対応、人口動態や社会構造の変化に加え、AI技術の進展により、大きな転換期を迎えています。

こうした中、当グループは2035年のありたい姿^(※1)として「**社会課題解決型ビジネスのリーディングカンパニー**」を掲げ、社会課題の解決と持続的な経済成長の両立の実現を目指し、**2026年度から開始する新中期経営計画**を策定しました。具体的には、次頁の3つの重点テーマに挑戦していきます。

<重点テーマ1>成長戦略～資産運用ビジネスを軸とした信託グループらしいビジネスモデル～

当グループは、「好循環」を通じた持続的成長を実現するため、引き続き資産運用ビジネスに注力します。特に、インフラの老朽化対応や再生可能エネルギーなどの長期・非流動性の資金ニーズと従来型の預金中心の短期調達モデルから発生するミスマッチの解消に挑戦します。

そのために、インフラなどのリアルアセット分野を中心に、投融資の知見や目利き力を起点に自らのバランスシートを活用することで、年金などの長期性運用資金を安心して投資できる機会を創出し、持続的な成長の実現に貢献していきます。

また、ファンドラップなどの投資一任型サービスを通じ、質の高いプライベートアセットを組み入れたポートフォリオを提供することで、投資家の皆さまの多様なニーズにしっかりと応えてまいります。

加えて、三井住友信託銀行及び住信SBIネット銀行やUBS SuMi TRUST ウェルス・マネジメント株式会社を含むグループ各社が、多様なチャネルとサービスを一体的に高度化することで、資産形成・管理の裾野を拡大するとともに、高度な資産運用から承継までを一貫して提供し、お客さまのファイナンシャル・ウェルビーイング^(※2)の実現を支えてまいります。

<重点テーマ2>資本戦略

政策保有株式の削減を継続し、創出した資本を成長領域へ重点的に配分します。

資本活用に向けては、先進の米国や成長著しいアジアなど、グローバルな資産運用領域を中心とした出資・提携等を加速します。アモーヴァ・アセットマネジメントでは、高い経済成長率と継続的な人口増加が見込まれるマレーシアの大手資産運用会社AHAM Asset Management Berhadを連結子会社化し、アジア市場でのビジネスを拡大していきます。

引き続き、成長投資と株主還元のバランスを踏まえた規律ある資本配分を通じて、中長期的な企業価値を向上してまいります。

<重点テーマ3>経営基盤高度化

信頼性と生産性を兼ね備えた強固な経営基盤の構築に向け、AIの活用を前提とした業務プロセスの進化と、人材育成・人材活用の強化を進めていきます。

社員一人ひとりがAIを駆使し、業務プロセスなどを設計することを前提とした人材育成・人材活用を推進することで、信頼性の高いオペレーションモデルを確立します。

あわせて、人的資本の強化として、自律的なキャリア形成を軸とした新人事制度の定着・高度化を進めます。さらに、戦略領域への重点配置を通じて、高付加価値・高生産性の人材ポートフォリオへ転換することで、よりよいサービスを追求してまいります。

(※1) 2035年のありたい姿（定量）：業務純益：1兆円、ROTCE：16%（ROE：12%）

(※2) ファイナンシャル・ウェルビーイング：「安心して健やかに生きていくために、お金についての不安をとりのぞき、お金との健全な向き合い方ができている状態」を指す

4. 株主の皆さまへ

2026年6月19日開催の第15期定時株主総会兼普通株主様による種類株主総会において、株主の皆さまのご信任を賜り、取締役役に就任いたしました。報告事項及び決議事項等の詳細は当社ホームページに掲載しておりますので、右記二次元コードよりご確認ください。

当グループは、新たな中期経営計画を通じて、信託の力を進化させ、掲げた戦略を着実に遂行することで、ありたい姿に向けた次の成長を実現します。「託された未来をひらく」というパーパスのもと、これからもすべてのステークホルダーのウェルビーイング向上に貢献してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも格別のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



業績ハイライト 2025年度決算の概要（連結）

三井住友トラストグループ（連結）

（単位：億円）

	2024年度	2025年度	増減
実質業務純益 ^{*1}	3,620	3,474	△ 145 ①
実質的な資金関連の損益 ^{*2}	3,749	3,941	+ 192 ②
手数料関連利益	5,085	5,615	+ 529 ③
その他の利益	506	45	△ 461
総経費 ^{*1}	△ 5,721	△ 6,127	△ 405
経常利益	3,676	4,014	+ 338
親会社株主に帰属する当期純利益	2,576	3,175	+ 599 ④
与信関係費用	△ 246	△ 239	+ 7 ⑤
自己資本当期純利益率（自己資本ROE）	8.30%	9.54%	+ 1.24%
1株当たり当期純利益（EPS）	359円56銭	451円80銭	+ 92円24銭

（単位：億円）

	2025年3月末	2026年3月末	増減
総資産	782,471	821,742	+ 39,271
純資産	31,273	35,909	+ 4,636
1株当たり純資産（BPS）	4,354円91銭	5,104円06銭	+ 749円15銭

三井住友信託銀行（単体）

信託財産残高	263兆円	265兆円	+ 2兆円
--------	-------	--------------	-------

※1 実質業務純益・総経費は、持分法適用会社の損益等も考慮した社内管理ベースの計数です。

※2 実質的な資金関連の損益は、「資金関連利益」に「その他の利益」に含まれる外資余資運用益を加算したものです。

① 実質業務純益は、前年度比145億円の減益となりましたが、これは将来に備えた債券ポートフォリオの健全化による損失約700億円を含んでおります。個人・法人・投資家のお客さま向けビジネスは順調に推移し、手数料関連利益や資金損益はともに増益となりました。

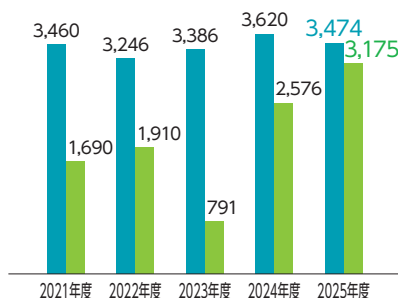
② 円金利上昇に伴い、受与信を中心に収益が改善したに加え、組合出資関連収益の増加もあったことから、前年度比192億円の増益となりました。

③ 手数料関連利益は、前年度比529億円の大増益となりました。資産運用・資産管理や証券代行の増益に加え、法人与信関連の手数料増加が増益に寄与いたしました。

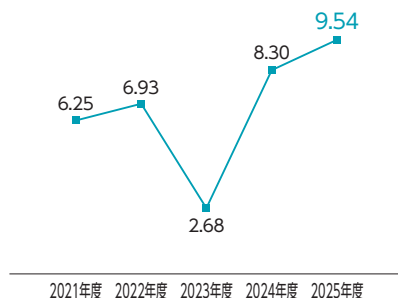
④ 上記に加え、政策保有株式の売却が堅調に推移したことによる株式等関係損益の増益と関係会社株式の売却に伴い特別利益を計上したことから、前年度比599億円と大幅に改善し、過去最高益を達成いたしました。

⑤ 地政学リスクに備えた特例引当金を計上し、将来への備えを実施したうえで、費用計上は前年度比7億円の減少となりました。

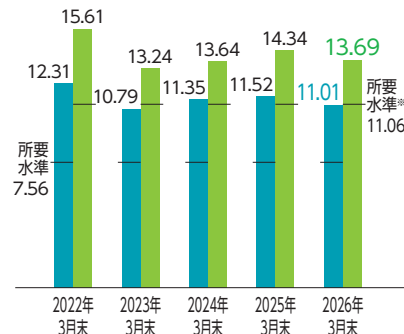
■ 実質業務純益 ■ 親会社株主に帰属する当期純利益 (億円)



■ 自己資本ROE (%)

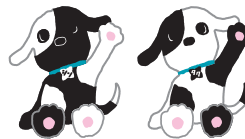


■ 自己資本比率等 (%)



※所要水準：銀行法等により定められた水準のこと

株主さまとのコミュニケーション広場



©シングル&タクセル

お寄せいただいた皆さまの声にお答えします

前回発行の2025年12月号にて実施しましたアンケートでは、多くの株主の皆さまからご回答をいただき心より感謝を申し上げます。皆さまから頂戴したご質問の中から、特に多く寄せられた声について、以下のとおりご回答申し上げます。

回答者数
10,156名

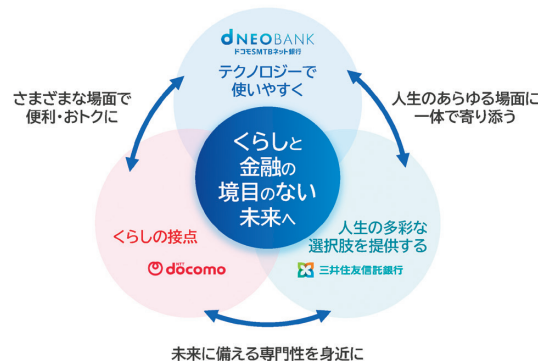
Q1 NTTドコモ・住信SBIネット銀行との業務提携の概要と今後の展開を教えてください。

2025年12月、住信SBIネット銀行の新社名「株式会社ドコモSMTBネット銀行」の公表とともに、三井住友信託銀行の追加出資*による同社の資本再編、各社間の業務提携について記者会見を行いました。

同社は株式会社NTTドコモ（以下、ドコモ）と三井住友信託銀行の共同経営の下での飛躍的な成長と、各社の強みを活かし、日常利用から専門性を要するものまで、様々な金融サービスがくらしの中に自然に溶け込むような、「**くらしと金融の境目のない未来**」の実現を目指します。

*同社による第三者割当増資引受約300億円及びドコモからの同社株式譲受約500億円（三井住友信託銀行の出資比率34.2%→44.6%）

2026年8月には通信回線や金融などのドコモサービスと住信SBIネット銀行の銀行サービスの連携を本格的に開始予定です。また、同社は**邦銀初のAI銀行サービス「NEOBANK ai」** エージェントのベータテストを実施中であり、テクノロジーを活用し、より多くのお客さまに利便性が高いおトクな銀行サービスを提供していきます。



<三井住友信託銀行×住信SBIネット銀行>

三井住友信託銀行は、住信SBIネット銀行を当グループの先進的デジタルチャネルとして位置づけています。共同運営する「三井住友信託NEOBANK」を通じ、日常決済や住宅ローンなどの定形サービスは同社を活用する一方、同社のお客さまにも専門的サービスを提供し、両社一体で多様なニーズに応えてまいります。2026年3月には同社による三井住友信託ファンドラップや不動産仲介サービスの紹介を開始しました。

<三井住友信託銀行×ドコモ>

2026年1月に三井住友信託銀行が提供する「スマートライフデザイナー」アプリでdポイントと交換できるポイントプログラムを開始したほか、協業を記念した定期預金キャンペーンも実施しました。

今後も「株主パスポート」などを通じたdポイント連携サービスを拡大するとともに、資産承継領域での協業やNTTグループのアセットを活用した金融商品開発などを進め、より多くのお客さまに信託銀行らしいサービスを提供していきます。



←スマートライフデザイナー

Q2 「株主パスポート」アプリを利用するメリットを教えてください。

株主総会における議決権行使について、2020年度には電子（スマートフォン・PC）による行使率は約2割に留まっていますが、2025年度には約6割まで上昇しており、デジタルシフトが着実に進んでいます（三井住友信託銀行調べ）。

このような中、「株主パスポート」アプリをご利用いただき、保有されている上場株式銘柄をご登録いただくことで、郵送物を開封せずとも、手軽に議決権を行使することが可能です。あわせて、適時開示情報や配当金情報等もアプリ上で一元的に管理・閲覧いただけます。

さらに、企業の各種イベント等にご参加いただくことで、アプリ内でポイントを獲得でき、獲得したポイントをお好みの物品と交換できるポイントプログラムもご利用いただけます。三井住友信託銀行主催の企画も随時実施していますので、詳細は当社公式Xアカウントやアプリ内のお知らせ等でご確認ください。



三井住友信託銀行証券代行部 「株主パスポート」アプリ開発担当者の想い

新NISAの導入などを背景に個人株主数が増加する中、株主名簿管理人として上場企業と個人株主との距離を近づけたいと考え、「株主パスポート」アプリの開発に至りました。

デジタルの力で対話の機会を広げ、一人ひとりの株主さまが企業とのつながりを実感できる体験を届けることができるよう、このアプリを進化させていきたいと思っております。

三井住友トラストグループの「株主パスポート」アプリ活用事例のご紹介

当社では、「株主パスポート」アプリ内で当社を保有銘柄登録いただいている株主さまを対象に様々な取り組みを実施しています。2025年度は重要文化財「三井本館」の見学会及びオンライン説明会を、2026年度には当社株式を1単元（100株）以上保有している方を対象に、アプリ内で使用可能なポイントを最大1,000ptもれなく進呈するキャンペーンを実施いたしました。今後も「株主パスポート」アプリを活用したイベントを複数企画していきますので、まだご登録されていない株主さまは、本誌表紙の二次元コードから、この機会にぜひご登録ください。

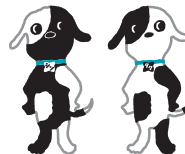
三井住友トラストグループのトピックス

— グループ全体の取り組み —

📱 公式X運用開始！

当社・三井住友信託銀行に関するさまざまな情報やニュースを発信するため、公式Xアカウントの運用を開始しました。

三井住友信託銀行のマスコットキャラクターであるシンジル&タクセルが、商品・サービスやキャンペーン情報、協賛の取り組みやニュースリリース等、さまざまな情報やニュースを配信します。ぜひフォローしてご覧ください。



公式Xアカウントは
こちらから

🎵 三井住友トラストグループのサウンドロゴ完成！

サウンドロゴとは、企業名を短いメロディーに乗せた効果音です。当グループ内のつながりを訴求するために制作し、社員投票で決定しました。

当グループのブランドムービーや三井住友信託銀行のTVCMなどで既に使用されており、グループ各社の各種動画コンテンツなどでも使用していきます。



ブランドムービーは
こちらから

🏆 100周年事業Action Challenge Award表彰結果発表！

2024年4月に創業100年を迎えたことを契機に、当グループでは周年事業の一環で社員の挑戦を称える取り組み「Action Challenge Award」を進めてきました。

その締めくくりとして、2026年3月には、グループ全社で宣言された1万件を超える挑戦の中から、社員投票で選ばれた6組の登壇者によるピッチ大会を開催しました。

当日は、ボディメイクなどのプライベートな挑戦から、既存業務の枠にとらわれない取り組み、海外拠点での取り組みまで、多様で個性豊かなプレゼンテーションが行われ、審査員（社長・役員等）による審査のもと、その場で表彰結果が発表されました。

最優秀賞にあたる「100周年賞」には、三井住友トラストクラブの社員の活動「小学生から大学生まで幅広い金融教育を実施し、沢山の人の未来を豊かにする！」が選出されました。

周年事業は本イベントをもって一区切りとなりますが、当グループでは今後も社員の挑戦を称え、挑戦し続ける企業風土づくりに取り組んでいきます。



ピッチ大会集合写真



「100周年賞」を受賞した三井住友トラストクラブ 黒川さん

— グループ会社の取り組み —

三井住友トラスト・アイルランド

現地高校生向け「トランジションイヤー」プログラムへの参画

三井住友トラスト・アイルランドは、日本の高校1年生に相当する学年を対象に、企業訪問やチャリティ活動等への参加を通じて生徒の社会的・人間的成長を促す、アイルランドのユニークな教育プログラムに参画しています。

同社はこの取り組みの一環として、毎年10名の現地高校生を1週間職場に受け入れています。同社の海外ファンド管理事業は高校生にとって、やや難解ではあるものの、日系企業ならではの日本文化の紹介などを交えた独自の職場体験は毎年好評を得ています。



泰国三井住友信託銀行

タイ現法開業10周年

2025年10月、泰国三井住友信託銀行は開業10周年を迎えました。現在、約100名のスタッフとともに、タイ国内に展開する日系企業、タイ地場企業のお客さまへの法人向け銀行サービス、不動産向けファイナンスやプロジェクトファイナンスなどに取り組んでいます。

今後もこの10年間で培った信頼と実績、及び三井住友トラストグループの総合力を活かし、お客さまの多様なニーズに応えつつ、次の10年及びその先の持続的な成長を目指していきます。



三井住友信託銀行

「ベストプラクティス・プレイブック 2025」への女性活躍推進の取組掲載

三井住友信託銀行の「サポーター役員制度」が、女性リーダーシップ強化に取り組む国際的な枠組みである「G20 EMPOWER」が作成した「ベストプラクティス・プレイブック 2025」に掲載されました。

「サポーター役員制度」は2021年度から開始した、当社役員による女性社員のキャリア形成支援プログラムです。役員との月次メンタリングやパイプラインの強化を通じて、女性リーダー候補の育成を行い、これまでに200名超の卒業生を輩出し、女性社員の部長級、副部長級の役職への登用の増加など、着実な成果が現れています。

当グループは今後も、女性活躍をはじめ多様な人材が活躍できる環境づくりを進めていきます。



三井住友トラストグループ/三井住友信託銀行

社会課題の解決とお客さまの安心を支える取り組みが高く評価され、
二つの賞を受賞

三井住友トラストグループは、社会課題の解決を通じた持続可能な社会の発展に取り組んでいます。そのような中、「おひとりさま信託」を通じて、お客さまのニーズを的確に捉え、社会課題の解決と安心の価値提供を進めてきた当グループの消費者志向経営の取り組みが高く評価され、「令和7年度消費者志向経営優良事例表彰（消費者庁長官表彰）」を受賞しました。また、同社が提供する新型金銭信託「フューチャートラスト」も個人のお客さまのご資金を企業などの社会課題解決への取り組みにつなげる金融商品として評価され、「2025年日経優秀製品・サービス賞ファイナンス部門賞」を受賞しました。



三井住友トラスト・アセットマネジメント

ビジネス・経済分野の人気YouTubeチャンネル「PIVOT」とタイアップ

三井住友トラスト・アセットマネジメントは、登録者数390万人を超えるYouTubeチャンネル「PIVOT」とタイアップした動画を公開しています。本動画では、同社ファンド「トレンドランキングシリーズ」のファンドマネージャーが、司会の柴田阿弥氏、聞き手の“サラリーマン投資家”風丸氏とともに、株価の勢いを捉える投資手法である「モメンタム投資」や、当ファンドの特徴・魅力について、一般の方にもわかりやすくお話ししています。動画は58万回以上再生されるなど大きな反響をいただいております。また、2025年12月に設定した同ファンドシリーズは、すでに運用残高200億円を突破しています。



三井住友トラストクラブ

プロゴルファー小林大河選手とスポンサーシップ契約を締結

三井住友トラストクラブは、2026年2月、プロゴルファーの小林大河選手（22歳）とスポンサーシップ契約を締結しました。小林選手は2025年、松山英樹選手が発起人となった「Hideki Matsuyama Amateur Challenge Presented by LEXUS」でアマチュアランキング上位者15名の中から優勝。男子プロゴルフツアーであるPGAツアー公式大会への出場権を獲得した期待の新星です。これからも次世代を担う若手選手の支援に積極的に取り組んでいきます。



（左から）小林大河選手、三井住友トラストクラブ五十嵐幸司社長（現・会長）

三井住友トラストグループ ～社会課題の解決に向けた取り組み～



当グループでは、パーパス「託された未来をひらく」のもと、
未来への挑戦を続け、持続可能な社会の発展に貢献すべく、社会課題の解決に取り組んでいます。

朝日杯将棋オープン戦記念「おやこ将棋教室」の開催

当グループが特別協賛する第19回朝日杯将棋オープン戦の記念イベントとして、2026年3月に「おやこ将棋教室」が開催されました。将棋が初めての子どもたちも、駒の動かし方から学べる初心者向けのプログラムです。プロ棋士の佐々木勇氣八段、武富礼衣女流二段との交流や対局を通じ、親子で一手一手を考えることの楽しさを感じていただき大変好評を得ました。今後も協賛活動を通じた社会貢献に継続して取り組んでいきます。



佐々木勇氣八段に挑戦する子どもたち

ボランティア活動「代々木公園花壇整備」の実施

当グループでは、2025年12月より、四半期ごとに都立代々木公園（原宿門付近）にて、NPO法人と協働し、社員とその家族による花壇整備を行っています。花壇の清掃から始め、土壌の状態を整える土づくりの後、参加者同士で意見を出し合いながらデザインを検討し、季節の花苗を植え付け、花壇全体を仕上げています。

花壇には当グループ名を記した看板を設置しております。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りいただき、彩り豊かな花壇をご覧ください。



認定NPO法人キッズドアへPCを寄贈

三井住友トラスト・パナソニックファイナンス（以下、TPFC）は、認定NPO法人キッズドアへPC50台を寄贈しました。教育現場ではPCの利用が必須となる一方、家庭で十分な環境を用意できない生徒も多く、デジタル格差の解消が課題となっています。

寄贈されたPCは、学習会やファミリーサポート（子育て家庭への生活支援）など、幅広い支援に活用される予定であり、今回の寄贈を通じ、子どもたちのデジタルリテラシー向上や個別最適化学習の支援を目指します。

TPFCは今後も社会課題の解決に向けた取り組みを通じて、より良い社会の実現に貢献していきます。



PC贈呈式の様子。（左から）
キッズドア渡邊由美子理事長、
TPFC稲葉啓志取締役
常務執行役員

グループ会社紹介



会社概要

三井住友トラストTAソリューションは、2002年8月に三井住友信託銀行（旧住友信託銀行）と日本証券代行（当時）の共同出資により日本TAソリューションとして設立されました。上場企業（以下、委託会社）からの委託を受け、株主名簿を一括して管理する証券代行業務において、金融事務・システムサービスに特化した専門会社です。その後、2013年3月に三井住友信託銀行の完全子会社となり、現商号に改称し、三井住友トラストグループの一員として成長・進化してきました。三井住友信託銀行から株主名簿管理業務を中心とした各種業務を受託し、お客さま（委託会社・株主さま）の企業価値・満足度向上に貢献するという重要な役割を果たしていくために、正確かつ迅速なサービスの提供を目指しています。

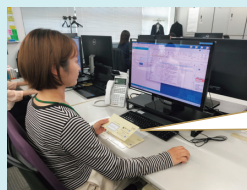
社員の一日を紹介します！



はなだ のりこ
花田 典子（日本株主データサービス 委託会社サービス1部 代理発注1チーム）

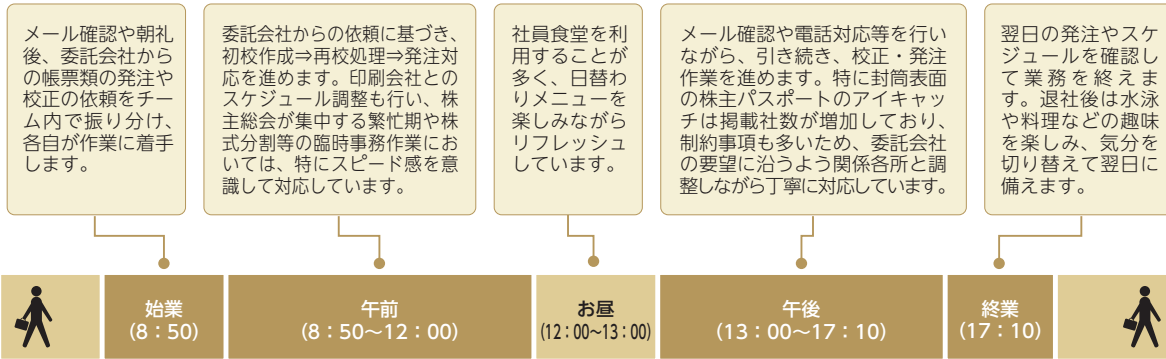
主な業務内容

委託会社の株主総会・配当金支払い及び株式分割時等における株主さま宛て郵送物のうち、委託会社毎のオリジナルリティのある帳票類（議決権行使書・配当金領収証・封筒等）の色合い・レイアウト等を調整し、印刷会社に発注する業務を行っています。委託会社のご意向や株主さまがどのように感じられるかを大切に仕事をしています。



本とらずと通信をお届けする封筒をはじめ、心を込めて丁寧に作っています！

一日のスケジュール





三井住友信託銀行 支店紹介

当グループをお客さまにとって一番身近な企業と感じていただけるよう、三井住友信託銀行の支店の特徴や、社員からお客さまへのメッセージをご紹介します。

日本橋営業部（東京都）

日本橋の地でお客さまと地域とともに
未来を築いていきます。

日本橋営業部は、国の重要文化財に指定されている「三井本館」に拠点を置き、長年にわたり信託の役割と価値を紡いできました。

若手社員を中心としたワーキンググループでは、地域イベントなど日本橋に根差した活動に積極的に参画し、地域との協働を進めています。

2025年度は、株主さまやお客さま、学校法人など幅広い方を対象に、「三井本館」の見学会や相続・資産運用などのセミナーを計90回以上実施するなど、当部及び「三井本館」のプレゼンス向上・地域貢献に努めています。

「三井本館」の意匠にこめられた「誠実と堅実」の精神を胸に刻み、より多くの皆さまに信託の価値を知っていただくため、今後も独自の取り組みを進めていきます。



(左) 2年に1度開催される福德神社神幸祭への参加
(右) 株主さま向け「三井本館」見学会の様子

【日本橋営業部担当者から皆さまへメッセージ】

日本橋営業部には約150名の社員が在籍し、相続をはじめとする各種専門分野に精通した担当者も常駐しております。伝統ある環境のもと、社員一丸となつて革新的な取り組みにも積極的に挑戦しています。

お近くにお越しの際は、ぜひお気軽にお立ち寄りください！営業部一同、皆さまのご来店を心よりお待ちしております。



「With you支店ブログ」で支店の活動を紹介中

こちらから、地域での活動やイベント情報など取り組み事例がご覧いただけます！



ご当地イチ押しスポット

貨幣博物館 - 日本のお金の歴史を辿る博物館 -

日本銀行本店に隣接する貨幣博物館は、日本銀行創立100周年を記念して開設された博物館です。和同開珎から近代の紙幣まで、日本の貨幣の歴史を体系的に紹介しており、実物資料や分かりやすい解説を通じて、経済や社会の移り変わりを学ぶことができます。金貨（大判）の重さを実際に体験できるほか、和同開珎や寛永通宝で何がいくらで買ったのかを知ることで、生活の中で使われてきたお金の役割を身近に感じることができます。



会社概要

商号	三井住友トラストグループ株式会社 <英語表記：Sumitomo Mitsui Trust Group, Inc.>
設立	2002年2月1日
資本金	2,616億872万5,000円(2026年3月31日現在)
本店所在地	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 ☎ 03-6256-6000 (代表)
上場証券取引所	東京（プライム市場）、名古屋（プレミアム市場） 証券コード：8309

株式の状況 (2026年3月31日現在)

発行可能株式総数	1,740,000,000株
発行済株式の総数	普通株式 698,812,980株
株主数	普通株式 157,758名

配当金を「配当金領収証」で受領されている株主さま

配当金を銀行等の預金口座へ入金する手続きをしていただきますと配当金支払開始日に株主さまご指定の口座に振り込まれ、迅速かつ安全・確実に配当金をお受け取りいただくことができます。

振込手続きをご希望の株主さまは、お取り引きされている証券会社もしくは上記株式についてのご案内に記載の三井住友信託銀行株式会社証券代行部へお申し出ください。


ウェブサイトのご案内

当社の詳細はウェブサイトでご覧いただけます。



株式についてのご案内

決算期	3月31日
配当金受領 株主確定日	中間配当金 毎年9月30日 期末配当金 毎年3月31日
単元株式数	100株
公告掲載方法	電子公告により行います。 (電子公告のサイトのURLは、 https://www.smtg.jp/ です) ただし、事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株式事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
	● 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
	● 電話照会先  0120-782-031

会計監査人	有限責任 あずさ監査法人
-------	--------------



草千里ヶ浜 (熊本・阿蘇)

熊本・阿蘇に広がる草千里ヶ浜は、夏の光を浴びて鮮やかに茂る山々と草原、静かに水を湛える池が調和した雄大な景観が魅力です。空の広さと清々しい空気が、訪れる人に深い安らぎをもたらします。